

グローバル COE プログラム 「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」
次世代研究イニシアティブ報告書

現代モンゴルの都市と地方における貴金属の文化的な価値—銀製品に注目して
風戸真理

地域研究統合情報センター・研究員

1. 調査地

モンゴル国

2. 研究目的

モンゴル牧畜社会では家畜とならび、銀と銀製品（これらをあわせて「銀製品」とよぶ）に高い価値が認められ、利用、相続、交換されている。本研究は、家畜と比較しながら、銀製品の経済的な価値と文化的な価値について考察する。具体的には、性差に注目しながら、銀製品に対する権利のあり方およびその利用と流通について検討する。

3. 研究の内容と成果

国際社会は、金をはじめとするモンゴルの地下資源に対する利権に強い関心を示し、国際機関は土地の私有化への圧力を政府にかけてきた。だがモンゴルにおいては、土地に対するローカルな権利は集合的なもので、私的所有の概念がなじまないと指摘されてきた。さらにいえば、土地と家畜の両方について、男性家長を代表とする世帯を単位とした集団的所有権が優越している。

しかしながら、モンゴルでは老若男女にかかわらず銀製品を個人的に所有している。銀製品の種類には、馬具の装飾品、茶碗、女性・男性それぞれの装身具などがある。これらは父母両系の先祖伝来の財として継承され、銀製品は家族の歴史についての記憶を喚起する鍵となっていた。また貴金属による装身は、モンゴルで普及しているチベット仏教の信仰において健康や運勢と関係をもつと考えられている。他方で、銀製品には経済的な価値がみとめられている。実際、社会主義初期の 1940 年代に初任給で銀塊を買ったと語る年長者がいた。

銀製品の利用において特徴的な点は、銀製品の利用において特徴的な点は、銀製品は必要に応じて分割あるいは統合されることである。ダルハンとよばれる鍛冶職人が牧畜地域を巡回し、牧民の所有する銀製品を鋳造や彫金の技術をもちいて再加工する。加工を依頼するクライアントの目的は、デザインや装飾目的の変更のほか、摩耗して断片化した銀製品の統合と再生および、複数の子に分与するための再形成であった。つまり、モンゴルの人々は銀製品を、家畜と同様に分割・統合しながら利用し、贈与しているのだといえる。

4. 成果発表の具体的な予定

未定

[写真：下] 鋳型を用いずに手作りされたルビーの指輪



[写真：右]
銀装飾のほどこされた鞍と頭絡

